

# 平成 28 年度 第 1 回学校評議員会 報告

## 1 出席者

- ( 1 ) 学校評議員 浜松学院大学講師  
NPO ぐらしえん・しごとえん代表理事  
天竜厚生会障がい者支援事業部長  
渡ヶ島自治会長
- ( 2 ) 本校 校長 事務長 副校長

2 日 時 平成 28 年 7 月 7 日 ( 木 ) 9:30 ~ 11:30

## 3 内 容

- ( 1 ) 校長挨拶  
( 2 ) 評議員委嘱  
( 3 ) 自己紹介  
( 4 ) 学校概要説明  
( 5 ) 校内見学  
( 6 ) 学校経営計画説明  
( 7 ) 意見交換

## 4 御意見

### < 地域・防災 >

- ・「みゅうの丘」についても、天竜特別支援学校についても、地域での認知度は高くないので、もっと情報発信を積極的にしていくと良い。月 1 回の地域の会合などで PR することも可能である。
- ・天竜特別支援学校が地域の緊急避難場所に指定されているが、あまり知られておらず位置的にも災害時に活用できるか不安がある。地域としては、建設予定のごみ処理施設を避難所に使えるようにしてほしいと市に要望している。

### < 短期在籍への支援 >

- ・中学部も短期在籍が増え、指導方法など過渡期だろうが、この状況だからこそ「授業力向上」を図ることは大事である。小学部低学年ではまだ自己認識は難しいが、高学年、中学生と深まっていく。自己認識の浅い時期、深い時期と段階を分けて指導のあり方を研究するのも良い。また短期在籍のため見えづらくなりがちが一貫した育ちへの理解を深め、それぞれの段階において今大事なことはこれ、という共通認識を教員が持てると良い。それが教員自身の自己実現にもつながるのではないか。
- ・通常学級から転入して復籍時に自閉情緒学級に移る子がいるのは、本人に適した環境に一步踏み出していくという意味で、天特に在籍した意義の一つといえる。
- ・安心な環境設定ももちろん大切だが、小さな失敗や困難を友達や先生と一緒に乗り越えることを天特で体験して、その後小規模な環境の中でも体験し、将来的に

社会の中でも乗り越えられるようになる、というステップが踏めると良い。

- ・ 成長過程のどこでもつれたのか(保護者や周囲との関係)の追究をしていきたい。
- ・ 3ヶ月の短期入院・短期在籍の成果はどうか。きちんとした検証が必要。うまくいかずまた戻ってくる子はより深い傷になってしまうのではないかと心配。医療サイドの発言は権限や影響力があるので、しっかりした成果や方向性を示してほしいと感じる。

#### < 卒業後・就労 >

- ・ 天特の「やさしさ」と一般社会の厳しさとのギャップをどう段階的に埋めていくかが課題。
- ・ 就労移行でも一般に特別支援学校卒業生は打たれ弱いケースが多い。
- ・ 合理的配慮等が叫ばれているが、雇用現場はあくまで「雇用契約に基づく労働」の場である。そのことを教員がどれだけ理解しているのか。ただ子どもたちを守るだけではなく、たくましさ・強さを育てていく必要がある。
- ・ かならずしも 18 歳が就労年齢だと考えなくて良い。天特の生徒のように脆さを持った子たちには、社会に出るまでにもうワンクッションがあっても良い。
- ・ みゅうの丘や自治会との連携を生かし、地域での労働体験を設定できると良い。
- ・ 高等部を卒業すると 18 歳ということで天竜病院児童精神科から一般の精神科などに主治医が変わるが、就職や進学など不安定になりがちなときに主治医が変わるのは好ましくない。卒業の半年くらい前から地域の医療機関に移っておくなど工夫が必要。